

意見公募手続結果概要

(様式2)

令和5年3月23日

担当部課 総合政策部 企画広報課

【案件名：第2期四條畷市総合戦略(原案)に対する意見募集】

令和5年2月15日～3月14日の間、実施いたしました当該案件に係る意見公募手続の結果の概要は、以下のとおりです。

① 提出意見の件数

合計 1名 (提出者の人数)

延べ 1件 (意見を内容別に集計しています。)

② 意見の内容別

「本市が抱える課題」にかんすること 1件

③ 提出意見に対する市の考え方

意見の概要	意見に対する考え方
<p>P6 本市が抱える課題</p> <p>「本市が抱える課題」に重要なポイントが抜けています。それは「公共交通機関の不便さ」です。これは学研都市線で通勤・通学する人は全ての市民が感じていることかと思えます。</p> <p>学研都市線が神戸線へ乗り入れるようになってから、京都線でのトラブル、神戸線でのトラブル、特急はるかの遅延など、事ある毎に学研都市線が巻き込まれて遅延が発生します。1時間以上快速しか来なくなり忍ヶ丘駅に辿り着けなくなるというトラブルも年数回以上発生します。</p> <p>これは他地域に住む人にも結構有名で、学研都市線沿線に住むことをためらう原因の一</p>	<p>第2章、本市が抱える課題においては、1人口から抽出される課題と2市民意識調査から抽出される課題の二つの視点から課題抽出をしております。</p> <p>市民意識調査においては、「交通の便が悪い」と感じている市民の割合が高いとの結果がでていることから、2市民意識調査から抽出した2つの課題、(1)定住意向、(2)市の推奨度の両方の項目にご意見をいただいた「公共交通機関の不便さ」も含まれているものと考えております。</p> <p>しかしながら、ご意見をいただいた乗り入れ等の鉄道の運行については、鉄道</p>

つとなっています。特に四條畷市は、京阪電車の駅からも離れており学研都市線が遅れたときの代替交通手段がありません。

四條畷市の付加価値向上のために、JR と交渉し、神戸線への乗り入れをなくすなり、トラブル時は尼崎駅や京橋駅からの折り返し運転を行う、快速を忍ヶ丘駅に止めてもらう等の交渉を市を挙げて行うべきです。「大阪駅から 30 分」の立地の利点を強みにできるようにすべきと思います。

事業者が主体となり、計画、運用されるものであること、また、利便性は、人により捉え方が異なるものと思料いたしますことから、本計画に基づく取組みには位置付けておりません。

なお、ご意見にもありました、忍ヶ丘駅は、本市唯一の鉄道駅であり、駅及びその周辺を含めた都市基盤の充実は、本市発展に重要な役割があるとの認識から、毎年 JR 西日本旅客鉄道に対して、利便性向上に向けた要望活動を行っており、今後も引き続き要望を続けてまいります。